

会社の現況

1. 事業概況

令和4年度の我が国は長引く新型コロナウイルス感染症拡大の中、エネルギー価格の上昇や急速な円安の進行などの影響を受けて物価が上昇し、市民生活や企業活動などに大きな影響が生じました。

そのような中でも、冷蔵倉庫は安定した保管機能を維持することが求められております。当社は川崎北部市場の冷蔵・冷凍保管機能を担い市場で取引される商品の流通を支え、市民の皆様へ食の安全・安心を確実に提供できるよう努めてまいりました。

当社といたしましては、厳しい経営環境の状況下にあっても、収入面においては市場内事業者及び市場外事業者への営業活動をすることで売上の維持、向上を図り、支出面においては高い水準にある動力費を節電努力等により抑制に努めるなど、経常利益の確保を図ってまいりました。

結果、今期の売上は保管料と凍氷販売を合わせた売上総額は362,247千円（前期比97.3%）となり9,923千円減収となりました。

一方、支出につきましては支出総額で、349,509千円（前期比104.5%）となり15,032千円増となりました。

（1）冷蔵保管部門

容積建保管の売上は202,621千円で前期比97.3%となりました。一般保管に関しては冷凍品・冷蔵品を合わせた売上高が148,883千円で前期比96.6%となりました。

（2）凍氷部門

販売数量は515屯（前期比108.4%）で売上高10,744千円（前期比109.6%）となりました。

（3）両部門合計

売上高合計は、362,247千円で（前期比97.3%）となり、9,923千円の減収となりました。

2. 冷蔵設備状況及び製氷日産能力

冷蔵庫	新1号棟	1,060 屯		
	2号棟	4,350 屯	(内超低温	1,294.6 屯)
	3号棟	10,674 屯	(内超低温	268.0 屯)
	合計	16,084 屯	(内超低温	1,562.6 屯)

凍氷 製氷日産能力 1日当たり 20 屯

3. 課 題

当面の課題として、老朽化が進む施設・設備の保守管理、修繕等による冷蔵冷凍機能の保全、自然冷媒を用いた環境に優しい冷凍機への更新、動力費を抑制するため保管品の品質維持を前提とした可能な範囲内の節電、人材の育成・確保に向けた取り組みの継続、などがございます。

また、中長期的な課題として、川崎市卸売市場経営プランに基づき実施される施設の機能更新等について、開設者や市場内事業者と連携して取り組むこと、などがございます。

以上の課題をしっかりと意識した運営を行うことで会社経営の安定化に努めてまいります。

4. 財産及び損益の推移

今期末における総資産は 401,372 千円で前期末に比べ 36,078 千円減少しました。また、純資産については 64,317 千円で前期末に比べ 13,904 千円増加しました。

損益状況では、当期純利益は 13,904 千円となり、その結果、繰越損失は前期よりも 13,904 千円減少し 135,683 千円となりました。

また、借入金については借入金総額 1,650,000 千円に対し、今期の返済額は 49,200 千円で、期末借入金残高は 61,500 千円となっています。